

学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成22年6月

岐阜大学

目 次

1 3. 連合創薬医療情報研究科	1 3-1
------------------	-------

1 3 . 連 合 創 薬 医 療 情 報 研 究 科

II	分析項目ごとの水準の判断	1 3 - 2
	分析項目IV 学業の成果	1 3 - 2
	分析項目V 進路・就職の状況	1 3 - 5
III	質の向上度の判断	1 3 - 6

Ⅱ 分析項目ごとの水準の判断

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

本研究科では、研究成果の学会発表を積極的に実施させ、プレゼンテーション力を身につけさせた。その取組によって、2名の学生が学会賞を受賞した。(表4-1-8)

学位論文審査においては、審査委員会の主査に主指導教員以外の教員を配置し、より客観的かつ厳格な審査を行うとともに、レフェリー制度のある国際的な一流学術誌への掲載を学位申請時点における必要条件としている。学年進行最終年度である平成21年度において、5人の修了予定学生のうち3人が学位論文の基となる学術論文をレフェリー制度のある国際的な一流学術誌に掲載又はアクセプトされた。インパクトファクターが2.5以上の学術誌へ掲載された学生もおり、また、現在アクセプト待ちの学生についても、そのすべてがインパクトファクター1.5以上の学術誌へ投稿している。在学2年次において既にインパクトファクター3.0以上のアクセプトを獲得している学生もおり、高水準での教育成果・効果があったことを示している。(表4-1-9)

平成21年度からは、学生の国際的視点の涵養を図るべく、海外派遣実習を開始し、米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校へ1人、サンフランシスコ大学及びフィラデルフィアのFox・Chase 癌センターへ1人の学生を派遣した。本取組では、交通費及び宿泊費の経費支援を行った。この取組により、海外における学会発表、ポスターセッション等において、外国人研究者と活発なディスカッションが出来るようになった。また、学術論文の作成、未知なる実験計画立案のスキルが顕著に向上した。

こうした取組により、平成21年度末に2人の修了生を輩出し、博士(工学)及び博士(薬科学)の学位を授与するに至った。中でも、博士(薬科学)は本邦初の学位であったため、岐阜新聞の一面に掲載された。(資料4-1-1)

表4-1-8 学生の学会発表状況

年度	発表学会名	発表者数
19年度	第38回嫌気性菌感染症研究会	1
	第7回日本糖尿病情報学会年次集会	2
	14 th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus 2007	1
	日本生体医工学会 東海支部学術大会	1
	第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会)	2
	第17回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会	1
20年度	日本顔学会	1
	第82回日本感染症学会総会	1
	第21回臨床微生物迅速診断研究会	1
	第20回日本臨床微生物学会総会	1
	第39回嫌気性菌感染症研究会	1
	第82回日本細菌学会総会	1
	The 8 th Japan-China Friendship Symposium on Diabetes Mellitus	1
	第51回日本糖尿病学会年次学術集会	2
	生体医工学シンポジウム2008【ベストリサーチアワード受賞】	1
	日本薬学会第129年会	2
	第28回医療情報学連合大会(第9回日本医療情報学会学術大会)	1
	第12回日本医療情報学会春季学術大会(シンポジウム in 秋田)	1
	ENZYMOLGY AND MOLECULAR BIOLOGY OF CALBONYL METABOLISM FOURTEENTH INTERNATIONAL MEETING	1
	日本化学会第89春年会	1

	第 18 回アンチセンスシンポジウム【優秀発表賞受賞】	1
	第 58 回日本アレルギー学会秋季学術大会	1
	第 82 回日本薬理学会年会	1
	第 46 回日本生物物理学会年会	1
	日本酸化ストレス学会第 61 回学術集会	1
21 年度	日本ケミカルバイオロジー学会第 4 回年会	2
	第 6 回国際核酸化学シンポジウム	1
	日本薬学会第 130 年会	2
	日本ジェネリック医薬品学会第 3 回学術大会	1
	医療薬学フォーラム 2009 第 17 回クリニカルファーマシーシンポジウム	1
	第 59 回日本アレルギー学会秋季学術大会	1
	第 82 回日本生化学会	1
	日本酸化ストレス学会第 62 回学術集会	1
	第 3 回日本腎と薬剤研究会・学術大会 2009	1
	第 21 回腎とフリーラジカル研究会	1
	日本糖尿病学会年次学術集会	1
	第 46 回日本生物物理学会年会	1
	第 12 回臨床腸内微生物学会総会学術集会	1
	第 46 回日本細菌学会中部支部総会	1
第 52 回日本感染症学会中日本地方学術集会	1	

表 4-1-9 学位論文の基となる学術論文掲載雑誌一覧

年度	論文掲載誌名	修了予定者と 在学生の別	インパクト ファクター
20 年度	Biochem. Biophys. Res. Commun.	在学生	2. 823
	Chem. Biol. Interact.	在学生	3. 077
	Free. Radical. Research.	在学生	2. 826
21 年度	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	修了予定者	2. 531
	Eur J Pharm Biopharm	在学生	3. 344
	Chemotherapy	在学生	1. 515
	Skin Research and Technology	修了予定者	1. 348
	Lipids in Health and Disease	修了予定者	2. 060
	Anaerobe (in press)	修了予定者	1. 561
	Oncol Rep	在学生	1. 524
	Environmental Toxicology Epub Nov 10	在学生	1. 730
J Parmacol Sci	在学生	2. 599	

観点 学業の成果に関する学生の評価

(観点に係る状況)

本研究科の教育により得られた平成 21 年 12 月（修了予定 3 ヶ月前）時点での資質・能力及び学位論文の満足度に対する学生の評価は良好であり、学業の成果に関する学生の評価は適切である。本アンケートを聴取した平成 22 年 3 月修了予定者のうち、2 人は修了し、残り 3 人のうち 2 人については学位論文の基となる学術論文を欧文のレフェリー制度のある国際的な一流学術誌に投稿中であり、その受諾及び掲載を待っている状況にあり、1 人は平成 22 年 3 月末時点で掲載された。（表 4-1-10）

表 4-1-10 修了生（修了予定学生）アンケート結果 （回答該当者 5 人）

質問事項	回答	人数
<質問 1 > 大学院教育（全般）は役に立ちましたか	(1)非常にあてはまる	2
	(2)かなりあてはまる	3
	(3)普通	
	(4)全くあてはまらない	
<質問 2 > 高度の知識の習得に役立ちましたか	(1)非常にあてはまる	3
	(2)かなりあてはまる	2
	(3)普通	
	(4)全くあてはまらない	
<質問 3 > 科学的・論理的思考の獲得に役立ちましたか	(1)非常にあてはまる	3
	(2)かなりあてはまる	1
	(3)普通	1
	(4)全くあてはまらない	
<質問 4 > 研究能力の獲得に役立ちましたか	(1)非常にあてはまる	3
	(2)かなりあてはまる	2
	(3)普通	
	(4)全くあてはまらない	
<質問 5 > 本研究科へ入学する前に比べて、修了時（又は現時点）で成長したと思いますか	(1)非常にあてはまる	3
	(2)かなりあてはまる	2
	(3)普通	
	(4)全くあてはまらない	
<質問 6 > 大学院を修了（学位を取得）した又は修了予定の段階となり、そのことに満足していますか	(1)非常にあてはまる	3
	(2)かなりあてはまる	2
	(3)普通	
	(4)全くあてはまらない	
<質問 7 > 学位論文又はその基となる学術論文に満足していますか	(1)非常にあてはまる	1
	(2)かなりあてはまる	3
	(3)普通	1
	(4)全くあてはまらない	
<自由記入欄> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人であるが故にあまり余裕はないが、仕事ばかりではなく広い視点で物事を考える良いきっかけとなった。創薬は1つの学問だけでなく、様々な知識・研究能力が必要であり、このことから本大学院育成プログラムの意義を実感できた。特に創薬の現状や考え方を色々な先生方から講義していただいたことは非常に役に立ったと思う。一方では13単位は結構厳しくも感じた。 ・ 先生のご指導は非常に丁寧であり、講義では研究の歴史から最先端の内容までを学ぶことができました。私自身の研究内容を考慮して講義内容や時間を決めて下さったため、日々の研究にも役立ち、また無理せずに講義を受けることができました。<質問 7>は、現在の私の研究結果から、「もう少し時間があればもっといろいろできるかな」という自分の研究に対する期待を込めて(2)にしました。今の研究で学位論文を書くことができるとても満足しています。 ・ <質問 7>についてはまだやり残したこともあり、更に研究を継続したい意味を含めて(3)とした。大学院入学により知識や研究の範囲が広がり、満足している。 ・ 薬学・動物実験等とても貴重な体験をした。今後の研究に反映させたい。 		

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本研究科の修了に際しては、厳格な学位論文審査体制が整備されており、国際的な一流雑誌に公表されるなど博士学位水準をクリアしている。これは、修了者が十分な学力や資質・能力を身に付けている証左であると言える。

また、平成21年12月(修了予定3ヶ月前)時点におけるアンケート結果から鑑み、学生は本研究科の教育・研究指導を高く評価しているとともに、自身の学業成果に対する満足度も高い。

以上のことから、良好な学生・修了生の学業成果は、医療機関、創薬関連企業、地域社会等の関係者の期待に十分応えるものであり、期待される水準にあると判断した。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業(修了)後の進路の状況

(観点到に係る状況)

平成19年度に設置された本研究科が3年間の学年進行期間を経過する平成21年度末時点において、2人の修了者を輩出することとなった。1人が社会人学生であり、もう1人の一般学生については、就職が内定している。また、平成22年度6月修了予定者が1人在籍しており、その学生も就職内定を獲得している。進路は下記のとおりである。(表5-1-11)

表5-1-11 修了生の進路

	修了年度	学生種別	就職先
学生1	平成21年度	社会人学生	—
学生2	平成21年度	一般学生	特許関係企業、県外
学生3	平成22年度(予定)	一般学生	製薬関係企業、県外

観点 関係者からの評価

(観点到に係る状況)

平成21年度末に修了する1人の一般学生について、就職先関係者からの評価・コメントをいただいた。その内容は下記のとおりであった。

- ・自身の強みや博士課程で培ったスキルについてしっかり自己分析ができている。
- ・その強みやスキルで社会に貢献する意思を感じる。
- ・女性博士が社会で活躍できるよいロールモデルとなることを期待する。

このように、採用関係者から高い期待と評価をいただいている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

修了者は、希望する進路へ進むことができている。また、修了者の就職先担当者から、修了生は教育目的に対応した学力・資質・能力を十分に有していることが高く評価されており、関係者の期待に応えている。よって、期待される水準にあると判断した。

Ⅲ 質の向上度の判断

事例1「国際的にも水準の高い柔軟な発想を有する最先端な領域で活躍できる人材を育成する。」(分析項目Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)

(質の向上があったと判断する取組)

学生の多様なニーズに対応し、職に就きながら学ぶ社会人学生(大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者)に配慮し、土日又は平日の夜等における授業の開講及び長期履修制度を利活用した計画的履修環境の構築を推進し、実施してきた。

また、平成21年度より、海外派遣実習を開始し、米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校へ1人、サンフランシスコ大学及びフィラデルフィアのFox・Chase 癌センターへ1人の学生を派遣した。本取組については、交通費及び宿泊費について経費支援を行い、研究に専心する環境を提供した。

資料4-1-1

国内初の薬科学の博士号を受ける長岡久美さん。手にするのは高機能性オリゴアミノ酸2-5Aの分子模型
—岐阜市川戸、岐阜大学—



岐阜市川戸の岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科で、創薬に特化した「薬科学」分野の研究をしてきた博士後期課程3年長岡久美さん(28)は、国内初の薬科学の博士号の学位を授与される。同研究科は岐阜薬科大学の連続で9年前

インターフェロン

「代替物質」開発

に発達。薬科学の分野で代わる治療効果の高い物質は、京都大学大学院の6番「高機能性オリゴアミノ酸」を主体と、本学で初めて「2-5A」を開発して学位授与者を輩出する。基礎研究を進めてきたことになった。長岡さんは岐阜大1年時から卒業後、岐阜大で2年間の修士で100万円年間教育助金を獲得。3年間は博士課程に進むが、高機能な代替物質を開発する。C型型肝炎などの特效薬を開発する。インターフェロンに代わる薬を開発する。

研究は後援に引き継がれ、長岡さんは岐阜市内の持許事務所に通職する。知的財産の保護に用いて自分の経験を生かしたい。在籍士になるのが目標」と話す。指導して来た同研究科長の北田孝子教授は「女性で博士課程に進行人が少ない中、後進の育成に力を入れている」と長岡さんの進歩をたたえている。

岐阜大大学院の長岡さん 国内初、薬科学博士に

普天間移設 複数案の可能性も

北紀復興整備担当が同日協議し、移設候補地の取りまとめを目指すことが分かった。沖縄県名護市のキャンプ・シニア上(釜田市)から沖縄県名護市のキャンプ・シニア上(釜田市)へ移設する方針で、複数案になる可能性もある。政府関係者は19日、明らかにした。

首相は3月中旬に政府で決めた。北紀復興整備担当は、移設候補地の取りまとめを目指すことが分かった。沖縄県名護市のキャンプ・シニア上(釜田市)から沖縄県名護市のキャンプ・シニア上(釜田市)へ移設する方針で、複数案になる可能性もある。政府関係者は19日、明らかにした。

普天間移設 政府案23日にも決定

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設問題で、鳩山首相と平野博文官房長官、岡田英也外相、北紀復興整備担当が同日協議し、移設候補地の取りまとめを目指すことが分かった。沖縄県名護市のキャンプ・シニア上(釜田市)から沖縄県名護市のキャンプ・シニア上(釜田市)へ移設する方針で、複数案になる可能性もある。政府関係者は19日、明らかにした。

政府内では、北紀復興整備担当を中心に検討しがシニア上(釜田市)の移設が中心とされている。このほか、ハリパッド(コナター)難波(釜田市)へ移設する案や内閣府に1500坪程度の敷地を指定する案を支持。平野氏は、沖縄本島東部の勝連半島先鋒部分に位置するホワイトビーチから沖合に約900坪の地を指定する案も検討されている。

「密約文書破」

岡田英也外相は19日、郷和彦元外務省参事長と、東長がノアールに取付後、密約文書破

米軍政府は19日、西田橋移設候補地で辺野古96年、米軍普天間のキャンプ・シニア上(釜田市)へ移設する方針で、複数案になる可能性もある。政府関係者は19日、明らかにした。

岐阜新聞 3月20日 土曜日 発行所 岐阜新聞社 岐阜市今小町10番地 TEL500-8877(専用番号) FAX500-264-1131(代) ©岐阜新聞社 2010

CERES COFFEE 株式会社 セレス 岐阜市六条北4-19-12 TEL058-274-1611 http://www.ceres-group.co.jp